

患者ではなかった昨日に、患者ではない明日を

かし わば

柏葉脳神経外科病院広報誌

専門医が解説する パーキンソン病

柏葉脳神経外科病院 脳神経内科 吉田 一人

vol.55

2020.8

社会医療法人 柏葉会
柏葉脳神経外科病院

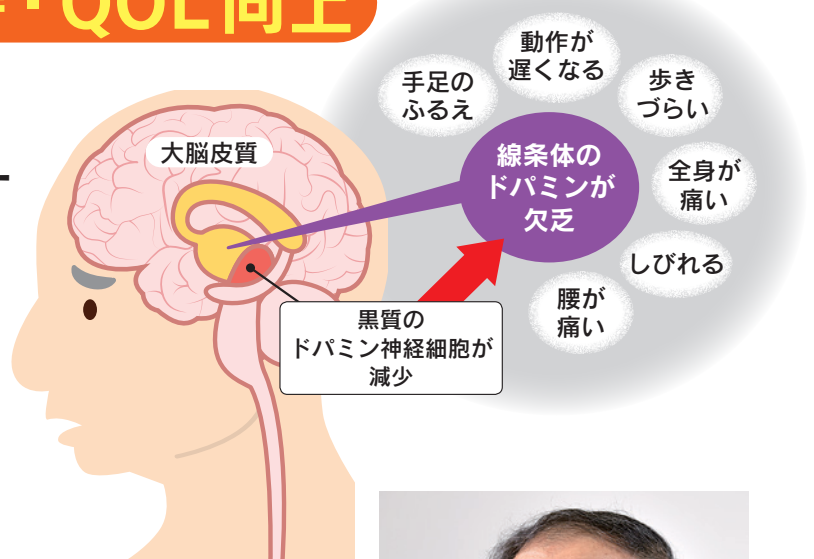
病院の理念 私たちは、安全で安心いただける医療のサービスに徹し、患者さんの幸せを守ります

運動機能に障害が出る脳の疾患

早期治療で症状改善・QOL向上

ダットスキャン検査が 早期診断の精度を上げています

パーキンソン病は中脳の黒質にある「ドパミン神経細胞」が減ることによって発症します。完治が困難な難病として知られており、その原因は解明されていません。症状が多様で個人差も大きいことから診断が困難でしたが、有用な新しい検査法が確立され、早期診断が可能になりました。



【略歴】

1981年 北海道大学医学部卒業
北海道大学医学部脳神経外科入局
1987年 北海道大学医学部神経内科移籍
1999年 旭川赤十字病院神経内科部長
2011年 旭川赤十字病院副院長
2020年 柏葉脳神経外科病院勤務

【資格・所属学会など】

日本神経学会専門医・指導医
日本認知症学会専門医・指導医
日本頭痛学会専門医・評議員
日本脳卒中学会専門医
日本内科学会認定内科医
日本リハビリテーション医学会認定臨床医
日本神経治療学会
MDS (movement disorder society)
MDSJ (日本パーキンソン病運動障害コンgres)



柏葉脳神経外科病院
脳神経内科
吉田 一人

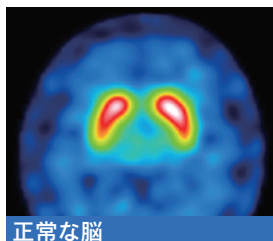
診断の精度を上げる検査法で 早期診断が可能に

パーキンソン病の特徴的な初期症状として「手足のふるえ」が知られていますが、4割の患者さんの主訴は「ふるえ」ではなく、「こわばり」と「動作緩慢」です。症状に個人差があり、経過年数により出現する症状も異なります。複数の生活習慣病を抱える高齢者に発症することが多く、ゆっくりと進行するため、専門医への診察が遅れがちとなり早期診断が困難でした。

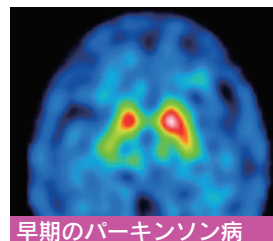
ところが近年、日本で実施可能となった「ダットスキャン検査」は、脳内のドパミンの働きを画像で見ることができま

す。正常な脳ではドパミンが働いている線条体をはっきり見えますが、早期のパーキンソン病では減少が明らかです。進行期においてはドパミンの欠乏により線条体への集積が著しく低下します。

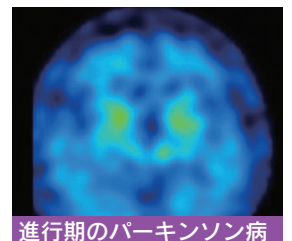
こうした異常は、CT検査やMRI検査で捉えることができません。ダットスキャン検査が行える医療機関はまだ限られていますが、柏葉脳神経外科病院では実績を重ねてお



正常な脳



早期のパーキンソン病



進行期のパーキンソン病

問診・診察

パーキンソン病の運動症状

必須

動作が遅くなる
(無動・動作緩慢)



+

手足や体幹が
こわばる
(筋強剛)

または
手足が
ふるえる
(振戦)

+

ダットスキャン検査

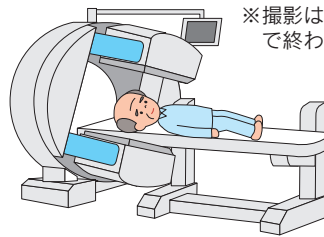
核医学検査の一つであるダットスキャン検査は、線条体で働くドパミンの分布を捉え画像化できます。

検査の流れ

検査薬を点滴で静脈注射する

約3時間後

RI装置に30分ほど仰向けになる



※撮影は30分ほどで終わります

診断

パーキンソン病

パーキンソン病
以外の病気

り、検査数が増えています。

当院では問診と診察に、この検査法を加え、パーキンソン病の早期診断の精度を上げています。早期治療を行うことで症状改善・QOL（生活の質）向上を目指すことができ、寝たきりにならずに日常を過ごせる患者さんも増えてきました。

薬物療法とリハビリテーション療法の 組み合わせで治療を開始

早期のパーキンソン病の治療は、ドパミン補充療法を中心とした薬物療法と、体の機能を維持するリハビリテーション療法です。この2つを組み合わせで行い、治療効果

をさらに高めます。当院のリハビリテーションは充実しており、理学療法・作業療法・言語聴覚療法を組み合わせ、専門性の高いプログラムを提供しています。

病気が進行し、薬物療法とリハビリテーション療法だけでは十分な治療効果が得られなくなった場合は、北海道大学病院との連携による外科療法（デバイス補助療法）を試みます。

近年、超音波を使った治療法の有用性が確認されており、「体への負担が少ないパーキンソン病のデバイス補助療法」として注目されています。また、話題を集めているiPS細胞を用いたドパミン神経細胞移植療法の臨床研究も進んでおり、遠くない将来に根治的な治療法が確立されると期待しています。

パーキンソン病の治療

薬物療法

外科療法

リハビリ
テーション
療法



予約制

脳神経内科のご案内

診察日 お電話でご確認ください
担当医師：吉田 一人

☎ 011-851-2370

受付時間

平日 8:30 ~ 11:30 13:00 ~ 16:00

土 8:30 ~ 11:30



新任医師紹介

先輩から学んだ技術を患者さんに

洞爺湖町（旧虻田町）の出身です。脳神経外科医を目指したのは、言語聴覚士の父から脳卒中リハビリテーションの難しさを聞いていたことと、脳卒中治療の第一線で活躍する医師たちの責任感や使命感に憧れを持ったことがきっかけでした。総合病院で経験を重ねた後は脳卒中治療の第一線で役に立ちたいと考え、2020年4月に柏葉脳神経外科病院に籍を移しました。脳神経外科医として、救急・外来、手術などを担当しています。

当院には脳の専門病院としての伝統的な脳神経外科の手技だけでなく、新技術を積極的に導入する度量の大きい医療体制があり、道内随一の脳神経疾患別エキスパートもそろっています。先輩医師たちのクオリティの高い手技を身近で学べることに感謝し、私自身も成長したいと専門医の資格取得を目指しています。

病気と闘う患者さんのために全力を尽くす医師でありたいと思っています。多忙ではありますが、家族との時間が私をリフレッシュさせてくれています。



たてざわ りょうた
脳神経外科 館澤 諒大

【略歴】

2014年 札幌医科大学卒業
砂川、釧路、小樽の総合病院に勤務し、北海道大学病院でも脳神経外科領域の臨床経験を積む。



社会医療法人 柏葉会 柏葉脳神経外科病院

脳神経外科・脳神経内科・循環器内科・
リハビリテーション科・放射線科・麻酔科

〒062-8513

札幌市豊平区月寒東1条15丁目7-20

電話 011-851-2333

FAX 011-851-2131

URL <https://www.kashiwaba-nougeka.or.jp>



救急指定病院

救急患者さんは、診療日・診察時間を問わず
24時間診察いたしております

外来診療

脳神経外科 脳神経内科 **予約制** 循環器内科 **予約制**

専門外来

もの忘れ外来 **予約制** 痙縮・顔面痙攣外来 **予約制**

脳動脈瘤外来 **予約制**

脳ドック **予約制** 4つのコースからお選びいただけます

受付電話番号 011-851-2370

受付時間	平日	8:30 ~ 11:30	13:00 ~ 16:00
	土	8:30 ~ 11:30	
	日・祝	休診	



病院の基本方針

- 患者さんにとって、思いやりのある最善の医療に全力をつくします
- 医師とスタッフによる説明と、患者さんの理解と選択に基づく医療を実践します
- 患者さんの意志とプライバシーを尊重します
- 医療従事者として、常に、豊かな人間性と技術の向上をめざします
- 救命・救急医療から心と体のリハビリテーションまで、高度な脳の専門病院をめざします
- 地域医療機関との強力な連携をはかり、よりダイナミックな医療のサービスを提供します